

建交労3・4中央行動 厚労大臣あて個人請願書を提出 全国4,157人分・北海道727人分

3月4日に「建交労春の中央行動」がおこなわれました。首都圏は新型コロナの「緊急事態宣言」が継続していることから、中央総決起集会は開かず、省庁交渉も全国トラック部会による国交省・厚労省交渉にしぼりました。厚労省交渉では、全国の仲間がとりくんだ厚労大臣あての個人請願書4,157人分（北海道は727人分）を手渡しました。また建設産別対策委員会は3月4～5日にゼンコン本社要請をおこない、道本部の森国委員長（全国労災職業病部会副部会長）が参加しました。

函館支部が公共工事の現場調査 賃金は設計労務単価の約半分

函館支部は昨年12月から今年2月にかけて函館市発注の工事6現場と道庁発注の工事2現場（このあとさらに1現場を予定）の調査をおこない、労働者81人からアンケートを回収しました。回答によれば、普通作業員の賃金は函館市が9,791円、道が8,835円と、2020年度の公共工事設計労務単価17,300円の約半分（函館市56.5%、道51.0%）しか支払われていません。函館支部はこの調査結果をもとに、自治体交渉などで賃金・労働条件改善を求めるとりくみを強めることにしています。

札幌市の清掃・警備労働者アンケート 賃金が2極化～しかし委託単価と大きな開き

札幌地区労連・建交労・自治体ユニオンは昨年12月、札幌市の施設清掃や警備業務などで働く労働者のアンケート調査をおこないました。市役所・区役所・地下鉄駅などを訪問してチラシといっしょにアンケート用紙を手渡し、返信用封筒で48人から回答が寄せられました。施設清掃で働く労働者の時間額賃金は最賃と同額の「861円」が約3分の1で、900円～950円の人が約半数と2極化が見られましたが、札幌市の委託単価（国の建築保全業務労務単価・2020年度）の最低である清掃員Cの時間額1,150円と比べると大きな開きがあります。警備員の時給も861円～900円と、委託単価の最低である警備員Cの時間額1,275円よりかなり低くなっています。また、回答者全体の中で「一時金がまったく出ない」が約7割、「寒冷地手当が出ていない」が9割近くなどとなっています。「公契約条例」については半数以上が「制定してほしい」と回答しています。自由記載欄には「清掃の仕事はコロナ感染リスクが高い中、最低賃金で働いています。少しでも賃上げを望みます」「パートでもボーナスを支給してほしい。仕事のはげみになります」などの声がありました。